

北陸地方のラン科植物

里 見 信 生

本日は“北陸地方のラン科植物”というような演題で申し上げたいと存じます。

御承知の如く、ラン科は美しい花を咲かせます。又、あるものでは芳香を出すものが多いので、昔から多くの人々に注目されるところです。徳川時代には蘭と申しまして、只今、私どもが考えているラン科植物 *Orchidaceae* という植物群の他に、香のよい草木を総称していたもので、これは松岡玄達という人が書いた“怡顔斎蘭品” 1) を見ても明白で、この中にはフジバカマやその他のもの、つまり蘭科植物でないものを多く含んで居ります。

ラン科植物は単子葉植物の中で、最も高等なものと考えられていて、雙子葉植物のキク科 *Compositae* と相対するものであります。然し、ハッチンソン 2) という人は単子葉では禾本科 *Gramineae*、雙子葉では唇形科 *Labiatae*

1) 松岡玄達：怡顔斎蘭品、明和9年(1772)

2) S. HITCHINSON: The Families of Flowering plants (1959)

を最もすんだものと見ている。このSystemは余り吾が国では使用する人がないが、私どもの教室の正宗教授はこれを用いて居られるので、私どもの教室に研究に来られた方々の調べられたリスト等にはこの方式が使われている。こちらに居られる渡辺さんは武生附近のリストをつくつて居られますが、3) これを御覧になつて御気づきと存じます。

さて、ラン科植物は大変種類が多いものであつて、この種類の多いということは、単に古来から研究者の興味をひいて、よくしらべられているからというような理由も確かに存在するであろうが、もつとも種の分化がすんだ、つまり言葉を換えて申せば、只今申しましたようにラン科植物がもつとも高等なものとして説明する一つの材料に考えられると思います。実際世界に知られているラン科植物の種類数は17000種ばかりありまして、菊科の14000種、マメ科の12000種をずっと上まわつて居ります。地球上の高等植物を約20万種とみますと、約5%がこの科のもの

3) 渡辺定路：福井県武生市のクロラの研究(1961)

のという事になります。

次に分布をみてみますと、熱帯から寒帯に広く分布していますが、種類も属も熱帯地方の方に多いことは申すまでもなく、ニューギネヤ、ボルネオ等を含む東印度諸島やアマゾン河流域のブラジル等はランの宝庫といわれ、これ等の地方では形態的にも目を驚かせるようなものが多い。面白いことには、熱帯では大部分が着生であるが、寒帯に行くにしたがつて、逆に地生のものが多くみられるようになる。

ラン科植物の種子のスライドを十数枚こゝにお目にかけますが、これを御覧になつておわかりのように大変御細なものでありますから、申すまでもなく、風散に適するものと考えられます。従つて、その分布は広く分布し得る能力を持つものと考えられますが、その個々の種類の分布図をつくつてみますと、それ程、広く分布していない事に気がつきます。4)。特に、ヒトツボクロモドキのように長崎県多良岳の特産、クロカミランは佐賀県、黒髪山の特産、ミスズランは近年、私は長野県の浅間山でみつけたが5)、八ヶ岳とこゝの二ヶ所だけにか知られていないというような例が割合に多い。又、個体数も採集に出て御気づきのように割合少ないものであります。この理由については、いくつかの事柄が頭に浮んで参りますが、例えば、ラン科のものは菌根を持つてゐることは御承知のところでありましようが、これなども大きな要素でないかと思われます。

日本産のラン科植物の種類は、どの位あるかとかぞえてみますと、大井次三郎氏の“日本植物誌”6)では約150種位であります。たゞし見方により、数に多少の出入りがあることは勿論

- 4) 正宗敏敬・里見信生：日本産蘭科植物分布図(一)～(十三) 北陸の植物Ⅵ-4～Ⅺ-3 (1958～1962)
- 5) 里見信生：二蘭科植物の新産地北陸の植物5:116 (1956)
- 6) 大井次三郎：日本植物誌(1953)

で、例えば大井氏はEleorchis属のサクランとキリガミネアサヒランを別種とみて居られるようだが、この両者は種類を異にする程の差異は認められない。つまり同一種類の中のものと思われる。日本は南北に長いので、比較的植物の種類に富んでいて、高等植物の数は、これも人によつて多くみる人と、少くみる人との相違はあるが、だいたい4000種位7)と考えられるので、従つて我が国では全種類数からみた日本のラン科は4%位になるであろう。この数は先に述べた全世界の種類に対する比率とくらべると少い比率を示している。又、先にも述べたように地生の種類が着生のものより多くなつてゐる。

さて、本題の北陸地方では、日本の今、述べた150種余の約 $\frac{1}{2}$ のものが存在する。こゝで述べる北陸は面積を広くとつて、福井、石川、富山に新潟県を加えてみた。国名で言うと若狭、越

- 7) 大井次三郎：日本産の顕花植物は何種あるか、遺伝9-5:43～44 (1955)

前、加賀、能登、越中、佐渡、越後の7ヶ国である。

それ等の種類の名を列記すると、次にあげるようなものである。

- 1 Amitostigma gracile (Bl.) Schltr. ヒナラン(若狭が北限)
- 2 A. keiskei (Maxim.) Schltr. イワチドリ(越前が北限)
- 3 A. kinoshitai (Mak.) Schltr. コアニチドリ(越中が南限)

- 4 *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim. ムギラン(若狭が北限)
- 5 *Calanthe discolor* Lindl. エビネ
- 6 C. *nipponica* Mak. キンセイラン(加賀白山)
- 7 C. *reflexa* Maxim. ナツエビネ
- 8 C. *tricarinata* Lindl. サルメンエビネ(佐渡)
- (佐渡にキエビネの報告があるが疑問である。)
- 9 *Cephalanthera erecta* (thunb.) Bl. ギンラン
- 9-1 C. *e.* var. *subaphylla* (Miyabe et Kudo)
- Ohwi ユウシユンラン
- 10 C. *falcata* (thunb.) Bl. キンラン
- 11 C. *longi bracteata* Bl. ササギンラン
- 12 *Coeloglossum viride* (L.) Hartm. アオチドリ(越後)
- 13 *Crematris unguiculata* (Finet) Finet トケンラン
- 13-1 C. *u.* form. *immaculata* Satomi フナントケンラン
- (花被片に紫色の小点を全く欠く品種(未発表))
- 14 C. *variabilis* (Bl.) Nakai サイハイラン
- 15 *Cymbidium virescens* Lindl. シュンラン
- 16 *Cypripedium debile* Reichb. fil. ユアツモリ(越後、佐渡)
- 17 C. *japonicum* Thunb. クマガイソウ
- 18 C. *macranthum* Sw. アツモリソウ(越後)
- 19 C. *yatabeanum* Mak. キンサアツモリソウ(越後)
- 20 *Dactylostalix ringens* Reichb. fil. イチヨウラン
- 21 *Dendrobium moniliforme* (L.) Sw. セキコク
- (越前、加賀、越後、佐渡)
- 22 *Eleorchis japonica* (A.Gray) F. Maek. アサヒラン
- 22-1 E. *j.* var. *conformis* (F. Maek.) F. Maek.
- キリガミネアサヒラン(越中立山)
- 23 *Ephippianthus schmidtii* Reichb. fil. スイチヨウラン
- 24 *Epipactis thunbergii* A. Gray カキラン
- 25 *Galeola septentrionalis* Reichb. fil. ツチアケビ
- 26 *Gastrodia confusa* Tuyaama アキザキヤツシロラン(若狭が北限)

- 27 *Gastrodia elata* Bl. オノノヤガラ
- 28 *Goodyera macrantha* Maxim. ペニシユスラン (越中大牧温泉が北限)
- 29 G. *maximowicziana* Mak. アケボノシユスラン
- 30 G. *schlechtendaliana* Reichb. fil. ミヤマウズラ
(越後八海山のシユスランは誤りである。)
- 31 *Gymnadenia camtschatica* (Cham.) Miyabe et Kudo ノビネチドリ
- 32 G. *conopsea* (L.) R. Br. チドリソウ
- 33 G. *cucullata* (L.) Rich. ミヤマモジズリ
- 34 *Habenaria radiata* (Thunb.) Spreng. サギソウ
- 35 H. *sagittifera* Reichb. fil. ミズトンボ
- 36 *Lecanorchis nigricans* Honda クロムヨウラン (佐渡が北限)
- 37 *Liparis auriculata* Bl. キボウシラン
- 38 L. *japonica* (Miq.) Maxim. セイタカスズムシソウ
- 39 L. *krameri* Franch. et Savat. ジガサソウ
- 40 L. *kumekiri* F. Maek. クモギリソウ
- 41 L. *makinoana* Schltr. スズムシソウ
- 42 *Listera cordata* (L.) R.Br. マフタラン
- 43 L. *nipponica* Mak. ミヤマフタラン
- 44 *Microstylis monophyllos* (L.) Lindl. ホザキイチヨウラン
- 45 *Myrmechis japonica* (Reichb. fil.) Rolfe アリドボンラン (越後)
- 46 *Nesfinetia falcata* (Thunb.) Hu フウラン (越前が北限)
- 47 *Orchis aristata* Fisch. ハクサンチドリ
- 47-1 O. *ar* var. *punctata* takeda ウズラノハクサンチドリ
- 48 O. *chidori* (Mak.) Schltr. ヒナチドリ (越前)
- 49 O. *cyclochila* (Franch. et Savat.) Maxim. カモメラン
- 50 O. *graminifolia* (Reichb. fil.) Tang. et Wang.
ウチヨウラン
- 51 O. *joo-iokiana* Mak. ニヨボウチドリ
- 52 *Oreorchis patens* (Lindl) Lindl. コケイラン
- 53 *Perularia iinumae* (Mak.) Ohwi イヌマムガ
- 54 P. *ussuriensis* (Regel) Schltr. トンボソウ

- 55 *Platanthera chorisiana* (cham.) Reichb. fil. タカネトンボ
- 56 P. *florenti* Franch. et Savat. シンバイソウ
- 57 P. *hologlottis* Maxim. シズチドリ (越後)
- 58 P. *hyperborea* (L.) Lindl. シロウマチドリ (越後)
- 59 P. *japonica* (Thunb.) Lindl. ツレサギソウ
- 60 P. *mandarinorum* Reichb. fil. var. *brachycenton*
(Franch et Savat) Koidy. ヤマサギソウ
- 60-1 P. m. var. *maximowicziana* (Schetr)
Ohwi. タカネサギソウ
- 61 P. *minor* (Miq.) Reichb. fil. オオバノトンボソウ
- 62 P. *ophrydioides* Fr. Schm. キソチドリ
- 63 P. *sachalinensis* Fr. Schm. オオヤマサギソウ
- 64 P. *tipuloides* Lindl. ホソバノキノチドリ
- 64-1 P. t. var. *nipponica* (Mak.) Ohwi
ユビノトンボソウ
- 65 *Pogonia japonica* Reichb. fil. トキノソウ
- 66 P. *minor* (Mak.) Mak. ヤマトキノソウ
- 67 *Sarcochilus japonicus* (Reichb. fil.) Mig.
カヤラン (加賀 山中温泉)
- 68 *Spiranthes sinensis* (Pers.) Ames. ネジシサ
- 68-1 S. s. form. *albescens* (Honda) Honda
シロモジズリ (佐渡)
- 69 *Tipularia japonica* Matsum. ヒトツボシロ
- 70 *Yoania japonica* Maxim. ショウキラン

追記：講演者はなお以上の種類の簡単な識別法を述べたが、省略する。